

(概要版)

# 知的特別支援学校高等部における キャリア教育の考え方を取り入れた授業づくり

— 「発達段階別の目標設定表」を活用して—

長期研修Ⅱ 研修員 春山 克昭

## 現状と課題

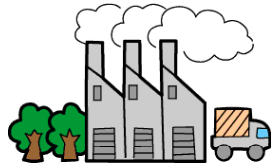
国・県

現状

特別支援学校卒業後の厳しい就労状況

課題

自立・社会参加の促進  
(就労促進)



協力校

現状

基本的な生活習慣・人とのかかわり  
・社会性・余暇の過ごし方など

課題

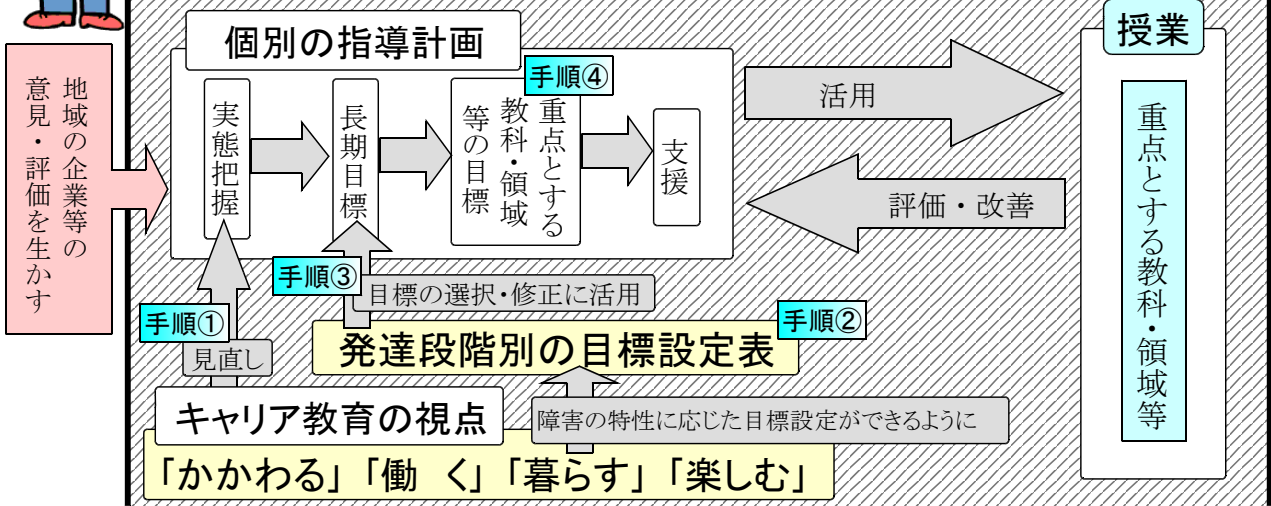
自立・社会参加に向けて  
基盤となる資質の向上



自立・社会参加に向けて基盤となる生徒の資質を最大限伸ばすために、  
キャリア教育の考え方を授業に生かすことが有効なのではないか…



## 知的特別支援学校高等部における キャリア教育の考え方を取り入れた授業づくり



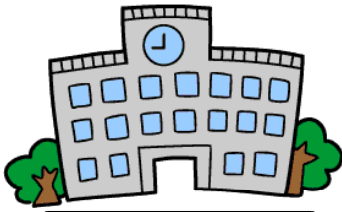
目指すもの



自立・社会参加の基盤となる資質の向上

## 知的特別支援学校におけるキャリア教育

### 知的特別支援学校



### キャリア教育

### 職業観

職業についての考え方や、「働こうとする態度や実際の作業力、役割を果たす意味」についての考え方

### 勤労観

様々な人たちとよりよくかかわる意味や、自分から進んで日常生活や家庭生活、社会生活に参加したり役割を果たそうとしたりすることについての考え方

児童生徒一人一人の自立・社会参加に向けて働こうとする態度や役割を果たす力、実際の作業力、人とよりよくかかわり自分から進んで生活しようとする態度や力を育てる教育

### 知的特別支援学校におけるキャリア教育の視点

「A かかわる」

「B 働く」

「C 暮らす」

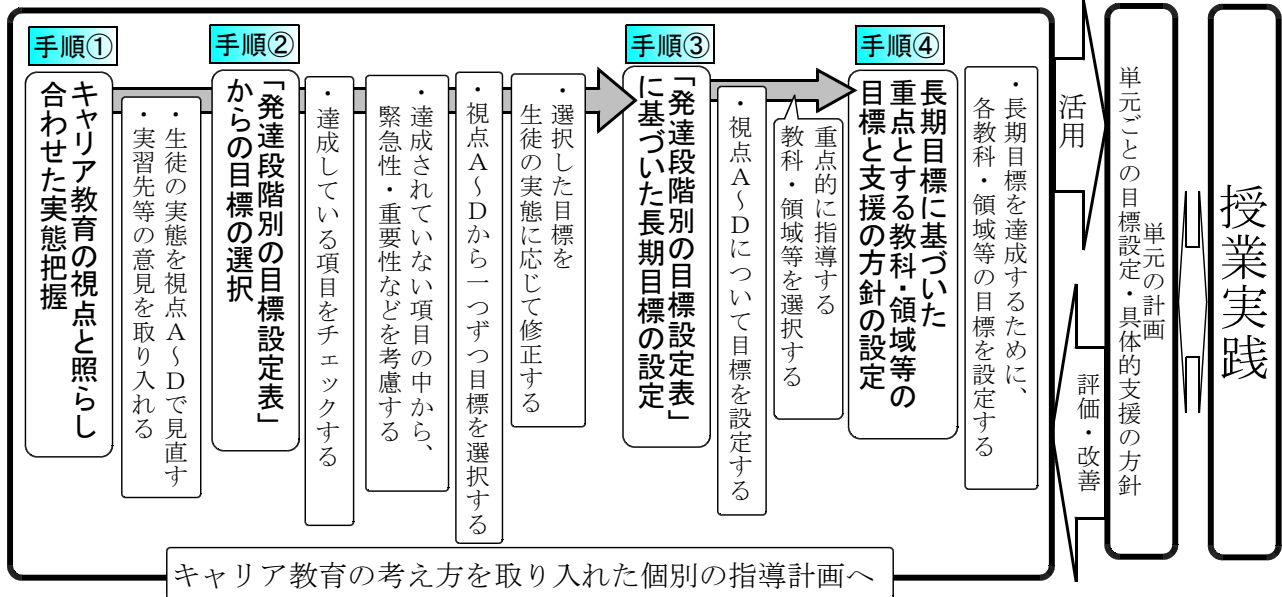
「D 楽しむ」

児童生徒の障害の特性を考え、自立・社会参加に必要な人とのかかわりや社会性、働く能力や役割を果たす力、余暇の過ごし方などを、キャリア教育で育てたい資質ととらえ、視点ごとに分かりやすく整理し分類した。

## キャリア教育の視点と育てたい資質

視点	育てたい資質		
A かかわる	○自分を表現すること ○相手を理解すること ○人とのかかわり	○あいさつ ○言葉遣い ○協力すること	○話を聞くこと ○適切な言動 ○電話の対応
B 働く	○作業能力 ○道具の操作 ○作業に取り組む姿勢や態度 ○反省する姿勢や態度	○安全・危険に対する注意 ○進路や仕事の情報 ○働くことに対する自主性	○適切な服装 ○適切な報告・指示の受け方 ○働く役割
C 暮らす	○身辺自立 ○時間の管理 ○炊事・洗濯・掃除	○整理・整とん ○衛生管理 ○金銭管理	○健康管理 ○交通機関の利用 ○家族や社会の一員としての役割・責任
D 楽しむ	○友達と一緒にスポーツを楽しむこと ○学校生活を有意義に過ごすこと ○作業や活動を楽しみにすること ○余暇を楽しむ(読書・音楽・工作・絵画・映像・写真・動物・草花など)	○友達と一緒に遊ぶこと ○計画を立てること	

# キャリア教育の考え方を取り入れた授業づくり



## 手順① 実態把握の見直し

	<見直し前>	<見直し後>
	実態	実態
生活行動面	興味のあるものを調べることが大好きである。 教師が言葉をかけることで、与えられた活動に取り組むことができるようになってきた。	D 興味のあるものを調べることが大好きである。 C 教師が言葉をかけることで、与えられた活動に取り組むことができるようになってきた。
コミュニケーション面	あいさつ・返事・報告の声は、小さいと言えるようになってきている。	A あいさつ・返事・報告の声は、小さいと言えるようになってきている。
作業面	集中して取り組める時間が長くなっている。	B 集中して取り組める時間が長くなっている。 B 一つの仕事が終わったら、次の指示を上げるとよい。

今までの個別の指導計画(実態把握)の一部

キャリア教育の視点を取り入れた個別の指導計画(実態把握)の一部

実習先等の意見を取り入れた実態を追加する

A かかわる B 働く C 暮らす D 楽しむ

視点A～Dの内容と照らし合わせ該当する記号を記入していく

## 手順② 「発達段階別の目標設定表」からの目標の選択

	視点	ステップ4	ステップ5	
対象生徒について達成されていたらチェックする	A かかわる	<input checked="" type="checkbox"/> 学校名と名前を言い「よろしくお願ひします」のあいさつで自己紹介ができる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の住所が言える <input checked="" type="checkbox"/> 20～30分程度の話を聞くことができる <input checked="" type="checkbox"/> 友達から借りた物を丁寧に扱うことができる <input checked="" type="checkbox"/> メモを見ながら、自分の意見を発表できる	<input checked="" type="checkbox"/> 自分や友達のよいところを見付け、言うことができる <input type="checkbox"/> 45分程度の話を聞くことができる…(ア) <input checked="" type="checkbox"/> 友達の気持ちや立場を考えた発言ができる <input checked="" type="checkbox"/> 学校のルールやきまりを守ることができる <input checked="" type="checkbox"/> 友達と協力して、学習や活動に取り組むことができる <input type="checkbox"/> 適切な場面で適切なあいさつをする…(イ)	視点B～Dについても同様に、生徒の実態に応じて目標を選択する  手順③で、選択した目標を生徒の実態に応じて修正し、長期目標を設定する
		視点Aの目標設定の場合、達成可能な目標である太枠線(ア)と波枠線(イ)を比較し、今必要なことの優先順位を考慮し、波枠線(イ)の方を選択した		

**手順③ 長期目標の設定**

手順②で選択した目標	個別の指導計画(長期目標)の一部
A 適切な場面で、適切なあいさつをすることができる。(ステップ5)	A 相手に伝わるように、あいさつ・返事・報告をすることができる。
B 自分から進んで作業に取り組むことができる。(ステップ4)	B 自分から進んで作業や学習活動に取り組むことができる。
C 割り当てられた役割を果たすことができる。(ステップ5)	C 割り当てられた役割を果たすことができる。
D 園芸での作物の収穫、美術や作業等の製品の製作などを楽しみに、活動に取り組むことができる。(ステップ7)	D 美術や家庭科、木工での製品の製作や、調理実習を楽しみに、活動に取り組むことができる。

「発達段階別の目標設定表」から選択した目標を生徒の実態に応じて修正し、視点A～Dの長期目標を設定する

長期目標を達成するために、重点的に指導する教科・領域等を選択し、視点A～Dの目標達成に向けた各教科・領域等の指導目標を、関連している視点について目標設定する

**手順④ 重点とする教科・領域等の目標と支援の方針の設定**

教科・領域等	目標	支援の方針
木工	A 担当者に伝わるように、返事や報告ができる。	担当者が返事や報告が相手に伝わる距離まで近づいて報告するモデルを示す。報告ができたときには、褒めることで自信をもてるようにする。
	B 担当した工程を自分から進んで取り組むことができる。	新しい作業や細かい作業でも、分かりやすく見通しがもてるように、必要な道具や材料、作業手順などを段階的に分けた手順表を用意する。
	C 分担した作業工程を、最後までやり遂げることができる。	新しい作業や難しい作業では、達成可能な目標数を設定する。目標達成したときは賞賛し、作業工程に自信をもつような言葉かけをする。
	D 製品を作り上げる達成感を味わい、作業を楽しみにできる。	自分の力で完成できる手順表を用意する。各工程を自分の力でできたとき、よかった点をフィードバックし、褒めて自信をもてるようにする。
日常生活の指導	A 相手に伝わるように、自分から進んであいさつや報告ができる。	気持ちよくあいさつできたと感じるように、毎朝、担当者が笑顔であいさつすることを繰り返す。
	B 清掃時に、自分から進んで床の隅から隅まで、掃除することができる。	隅から隅までほうきや雑巾で掃除する手順表を用意したり、正しいほうきの掃き方や雑巾の拭き方のモデルを示したりする。隅から隅まで掃除ができたときには賞賛する。
	C 自分の清掃分担を、最後までやり遂げることができる。	掃除が始まる前に、自分の力で掃除する階段の段数や場所(2階～踊り場～1階)を本人と相談して決める。目標を達成したときは賞賛する。

教科・領域等の特色に合わせて目標を具体化する

作業工程終了の報告を重点とし、目標を設定する

視点B～Dも関連していれば、目標を設定する

朝や帰りのあいさつや、清掃時の報告を重点とし、目標を設定する

**研究の成果**

「発達段階別の目標設定表」から目標を選択することで、自立・社会参加の基盤となる資質の向上に向けた目標を幅広く設定することができた。

キャリア教育の四視点から考えた目標を達成するための支援をスモールステップで考え、評価・改善することで、生徒の資質が向上した。

**研究の課題**

「発達段階別の目標設定表」の内容や活用方法について、自立・社会参加に向けて基盤となる資質の向上につながる目標になっているかどうか更に実践を重ねて吟味する必要がある。

企業等の視点から、生徒に一般就労の力がついたかなどを現場実習等で評価していく必要がある。

問い合わせ先 群馬県総合教育センター  
 担当係：特別支援研究係 0270-26-9218 (直通)